

コリント  
第一  
③

「肉に属する人  
霊に属する人」

コリント人への手紙 I 3章 聖化の原則に従って

# アウトライン

- 0. イントロダクション
- I. 肉に属する人よ 3章1～9節
- II. キリストが土台 3章10～17節
- III. 人の知恵を誇るな 3章18～23節
- IV. まとめと適用

聖化の原則を確認しよう



## コリントの手紙とは？

- **著者** …使徒パウロ。
- **年代** …55年頃。 **第3回伝道旅行**の途中。
- **執筆場所** …長期滞在中のエペソ。  
この後、コリントを再訪。
- **対象** …コリントのキリスト者たち。  
(離散のユダヤ人と異邦人)
- **執筆目的** …過ちを正し信仰の成長を促す。



序文		1:1～9
罪の叱責	①教会内の分裂	1:10～4:21
	②罪に対する懲戒	5:1～13
	③裁判の問題	6:1～8
	④性的放縦の問題	6:9～20
質疑応答	①結婚	7:1～40
	②偶像に捧げた肉	8:1～11:1
	③礼拝における秩序	11:2～34
	④聖霊の賜物	12:1～14:40
	⑤復活	15:1～58
	⑥献金	16:1～12
あいさつ		16:13～24



## 【当時のコリント】

- アカヤ州(ギリシャ南部)の首都  
自由民20万人 + 奴隷50万人 = 計70万人
- 国際都市。ローマ人、ギリシャ人…etc。  
かなりの規模のユダヤ人共同体も存在。
- 不道德の代名詞。「コリント人のように」  
少年への性愛や複数の愛人も当然。
- かつては海洋民族フェニキヤが支配。  
アシュタロテ礼拝が根付く(ペリシテも)。  
神殿娼婦の存在も。偶像崇拝が蔓延。



コリントの遺跡  
アクロポリスの丘

## 【序章に見るコリント人の手紙の大前提】

1:5 あなたがたはすべての点で、あらゆることばとあらゆる知識において、**キリストにあって豊かな者と**されました。

1:8 主はあなたがたを最後まで堅く保って、私たちの主イエス・**キリストの日に責められるところがない者**としてくださいます。

■ コリント人への手紙のテーマは、「**聖化**」 → **信仰の成長**。

信仰的に未熟で、問題だらけのコリント教会の信者たちだったが…

■ 神は、福音を信じた者を、**罪のないもの**とみなされている。

神の目に見えているのは、私たちの将来の**完成した姿!!**

→ だから私たちは、自分の現実と向き合って今を歩んでいける。

**キーワードは「位置的真理」 神の目には、すでになっている!!**

# I. 肉に属する人よ コリント I 3章1～9節



## 【靈的か、肉的吗】 コリントー3:1

兄弟たち。私はあなたがたに、**御靈に属する人\***に  
対するようには語ることができずに、**肉に属する人\***、  
**キリストにある幼子\***に対するように語りました。

\*靈的な人 …**成熟**した信者。神が行動の基準。

\*肉的な人 …**未熟**な信者。  
自分の感情や思考が行動の基準。





## 【乳飲み子・肉の人】 コリントー3:2～3

私はあなたがたには**乳\***を飲ませ、**固い食物\***を与えませんでした。あなたがたには、まだ無理だったからです。実は、今でもまだ無理なのです。あなたがたは、まだ**肉の人\***だからです。あなたがたの間にはねたみや争いがあるのですから、あなたがたは**肉の人**であり、**ただの人**として歩んでいることにならないでしょうか。

\*初歩の教え。

\*成熟した信者の学び

\*自分の感情や感覚が第一の人。その中の争い。



## 乳、固い食物、とは？

### 【ヘブル人への手紙5:12～14】

あなたがたは、年数からすれば教師になっていなければならないにもかかわらず、神が告げた**ことばの初歩**を、もう一度だれかに教えてもらう必要があります。あなたがたは**固い食物**ではなく、**乳**が必要になっています。

**乳**を飲んでいる者はみな、**義の教え**に通じてはいません。幼子なのです。**固い食物**は、**善と悪を見分ける感覚**を経験によって訓練された大人のものです。

■ **固い食物**を得られる人とは、実際的な訓練を経て、み言葉を的確に適用し、正しく善悪の判断ができるようになっている人。

## 初歩の教え、とは？

### 【ヘブル人への手紙 6:1～2】

ですから私たちは、キリストについての初歩の教えを後にして、成熟を目指して進むではありませんか。死んだ行い(口伝律法)からの回心、神に対する信仰、きよめの洗い(洗礼)についての教えと手を置く儀式(按手を受けた長老の権威)、死者の復活と永遠のさばきなど、基礎的なことをもう一度やり直したりしないようにしましょう。

#### ■初歩の教え

① 聖書に基づく信仰    ② 救いの原則と洗礼の意味

③ 地域教会の権威・組織    ④ 終末論

➔この時代の基準だと、聖書塾の内容は「初歩の教え」?!

## 【分派の問題の本質】 コリントー3:4～5

ある人は「私はパウロにつく」と言い、別の人は「私はアポロに」と言っているのであれば、あなたがたは、**ただの人**ではありませんか。

アポロとは何なのでしょう。パウロとは何なのでしょう。あなたがたが信じるために用いられた奉仕者であって、主がそれぞれに与えられたとおりのことをしたのです。

■ **分派の問題**(1:12～13)を再度取り上げる。

→ 信仰の未熟者が、私的感情と好き嫌いで対立しているだけの状態にすぎない。



## 【成長させるのは神】 コリント3:6

私が植えて、アポロが水を注ぎました。しかし、**成長させたのは神**です。

ですから、大切なのは、植える者でも水を注ぐ者でもなく、**成長させてくださる神**です。

植える者と水を注ぐ者は一つとなって働き、それぞれ自分の労苦に応じて自分の報酬を受けるのです。私たちは神のために働く同労者であり、あなたがたは神の畑、神の建物です。

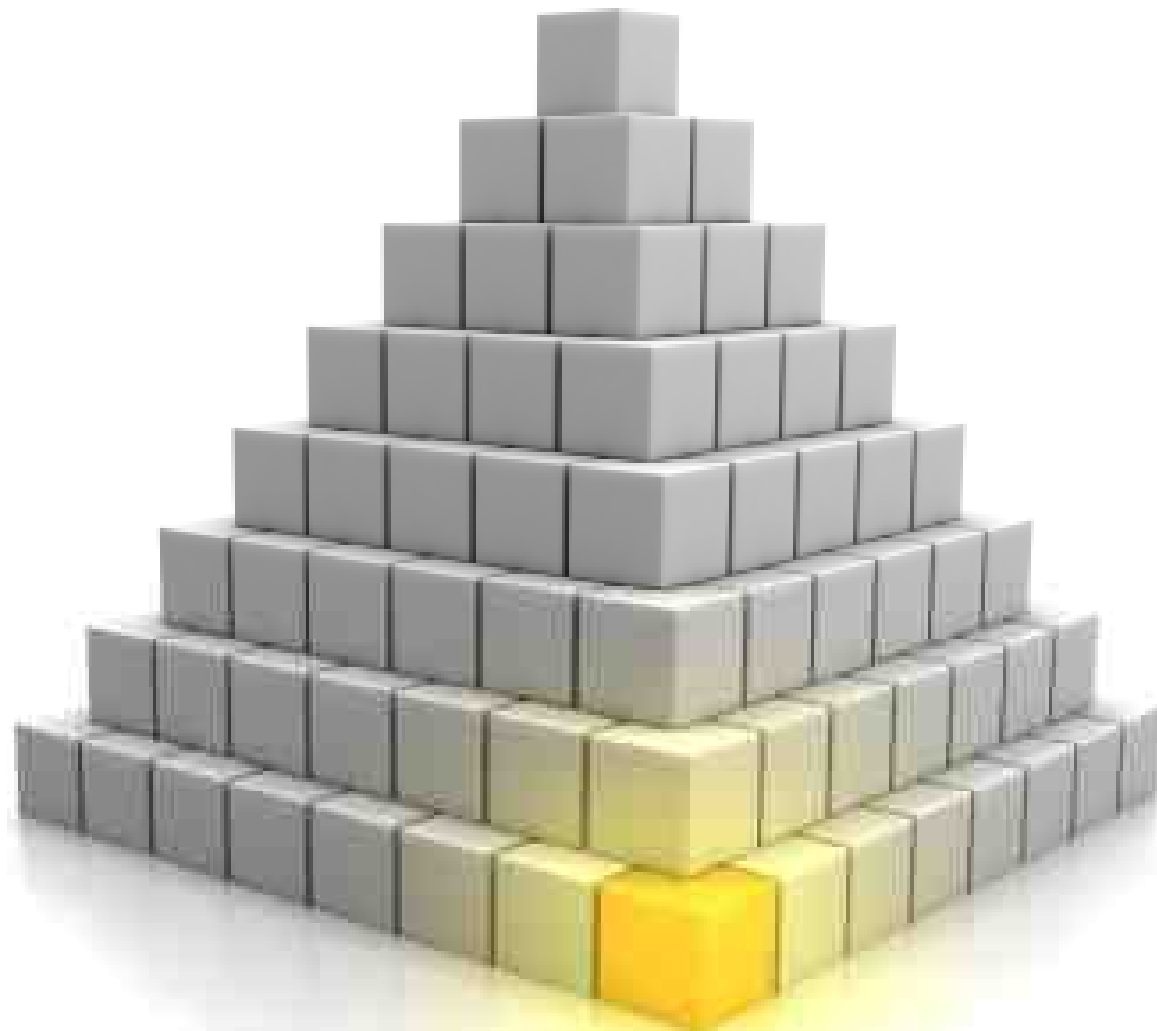
■ 御言葉の種それ自体の内に命があり、主ご自身が育み、ひとりでに実を結ばれる(マルコ4:26~28)



使徒20:32

今私は、あなたがたを神とその恵みのみことばにゆだねます。  
みことばは、あなたがたを成長させ、聖なるものとされた  
すべての人々とともに、あなたがたに御国を受け継がせる  
ことができるのです。

～パウロのエペソの人々への告別説教から～



## Ⅱ. キリストが土台      コリント人 I 3章10～17節

**【土台はキリスト】** コリントー3:10~11  
私は、自分に与えられた神の恵みによって、  
賢い建築家のように土台を据えました。ほ  
かの人があるの上に家を建てるのです。しか  
し、どのように建てるかは、それぞれが注  
意しなければなりません。

だれも、すでに据えられている土台以外の  
物を据えることはできないからです。その  
**土台とはイエス・キリスト**です。

■キリストの福音を信じることが土台。

➡対象はあくまで

信じて救われたクリスチャン。





## 【問われる信者の働き】 コリントー3:12~13

だれかがこの土台の上に、金、銀、宝石、木、草、藁で家を建てると、それぞれの働きは明らかになります。「その日」がそれを明るみに出すのです。その日は**火\***とともに現れ、この**火\***が、それぞれの働きがどのようなものかを試すからです。

**\*栄光**(シャカイナグローリー)

**\*その日**…栄光の主による「**キリストの御座の裁き**」

➡大患難を生きのびたメシアニックジューには、メシアの「**再臨**」の時。

➡携拳(空中再臨)から再臨まで、ひとかたまりに。



【火の中をくぐるように】 コリントー3:14~15  
だれかの建てた建物が残れば、その人は報いを受けます。

だれかの建てた建物が焼ければ、その人は損害を受けますが、その人自身は火の中をくぐるようにして助かります。

■ 私たちが地上で残した働きは、  
主イエスの吟味に耐え得るものか？

■ 天に積み上げた宝が何もなく、身一つで神の国に入れられる人もいる。

➡ それでも救いは失われない。



## 【神の宮】 コリントー3:16~17

あなたがたは、**自分が神の宮であり、神の御霊が自分のうちに住んでおられる\***ことを知らないのですか。もし、だれかが神の宮を壊すなら、神がその人を滅ぼされます。神の宮は聖なるものだからです。あなたがたは、その宮です。

### \* 聖霊の内住の原則

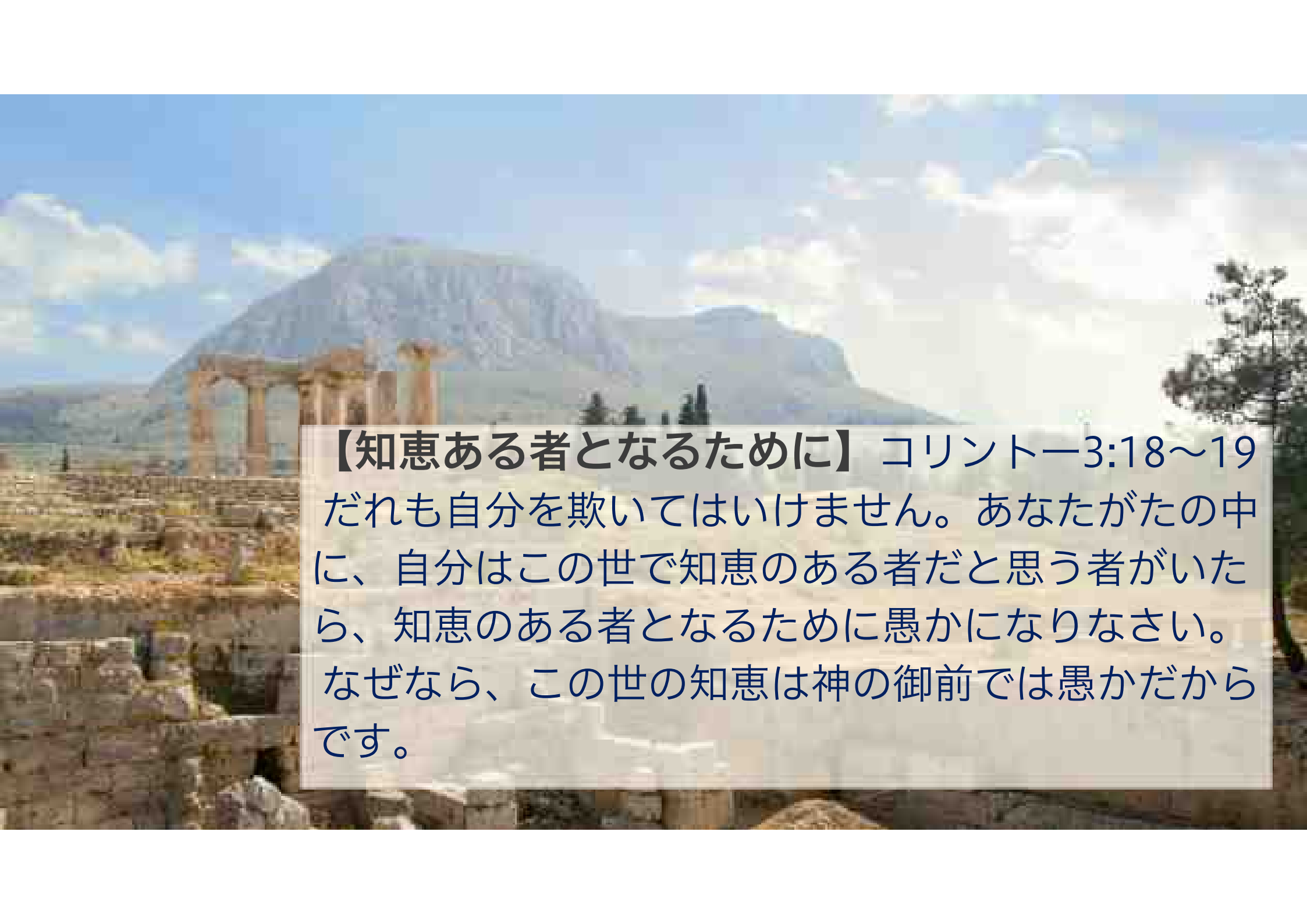
福音を信じたすべての人の内には聖霊が住まわれ、その人は神の宮とされ、守られている。

➡究極的には、真実の神の宮、天のエルサレムにすべての信者は招き入れられる。





Ⅲ. 人の知恵を誇るな      コリント I 3章18～23節



**【知恵ある者となるために】** コリントー3:18～19  
だれも自分を欺いてはいけません。あなたがたの中に、自分はこの世で知恵のある者だと思ふ者がいたら、知恵のある者となるために愚かになりなさい。なぜなら、この世の知恵は神の御前では愚かだからです。

ルカ10:21

ちょうどそのとき、イエスは聖霊によって喜びにあふれて言われた。「天地の主であられる父よ、あなたをほめたたえます。あなたはこれらのことを、知恵ある者や賢い者には隠して、幼子たちに現してくださいました。そうです、父よ、これはみこころにかなったことでした。」

～派遣された72人の弟子の宣教報告の後に～

## 【人の知恵のむなしさ】 コリントー3:19～20

「神は知恵のある者を、彼ら自身の悪巧みによって捕らえる」と書かれており、また、「主は、知恵のある者の思い計ることがいかに空しいかを、知っておられる」とも書かれています。

ヨブ 5:13 「神は知恵のある者を、彼ら自身の悪巧みによって捕らえ、彼らのねじれたはかりごとは突然終わる。」

箴 21:30 「どんな知恵も英知も、はかりごとも、【主】の前では無きに等しい。」

詩94:11 「【主】は人の思い計ることがいかに空しいかを知っておられる。」



【信仰はあなたのもの】 コリントー3:21～23  
ですから、だれも人間を誇ってはいけません。  
すべては、**あなたがたのもの\***です。  
パウロであれ、アポロであれ、ケファであれ、  
また世界であれ、いのちであれ、死であれ、また  
現在のものであれ、未来のものであれ、すべては  
あなたがたのもの、あなたがたはキリストのもの、  
キリストは神のものです。

- \*信仰は、その責任も恵みも、信仰者個人のもの。  
→誰に譲り渡すこともできない。
- そして、すべてのことは、  
キリストのものであり、神のものである。







## IV. まとめと適用 聖化の原則を確認しよう

## 【三段階の救いの原則】

①認罪 …私は滅びにいたる**罪人**だと認める。

②**義認** …「私の罪のため、主イエス・キリストは十字架にかけられ、死んで葬られ、復活された。」

→**福音**を信じて、神の目に義と認められる。救われる。

③**聖化** …罪の自覚を深めさせられながら、それでも主に信頼し、内住の**聖霊**によって変えられていく信仰の成長の過程。

④**栄化** …主イエスが王となった神の国で、**復活の体**を与えられる。完全にきよめられ、罪を犯すことはなくなる。

## 【聖化の過程で私たちを悩ますギャップ】

■福音を信じて救われた。

→すべての罪は赦され、神の目に罪なき、きよい者とされている。

■しかし一方で、何も変わらない私自身の現実がある。

教会で、まさかという他者の罪を突きつけられることがある。

→「私は、この人は、本当に救われているのだろうか？」

■信仰の後退した人、信仰の幼子は、未信者と見分けがつかない。

→疑心暗鬼が、さらに、信仰を低下させる悪循環に陥らせる。

■すでに、と、いまだに。このギャップを歩むのが信仰者の生涯。

疑心暗鬼と葛藤は、信仰者には避けがたいものだとして認識しよう

## 【悪循環から逃れ出すために】

- 問題だらけのコリントにパウロが求めたのは、**信仰の初歩の確認**。手紙の中でも度々確認するのは、永遠の救いを得たという大原則。
- 救いはただ、信仰と恵みによる。主イエスの救いは、永遠である。何度も繰り返し、この**救いの原則を確認**しよう。
- 何もしないでいて、救いの確信が深まることはない。具体的な行動を起こそう。日々聖書を読み、己の課題に取り組もう。第一になすべきことは、あなたの目の前にある。
- 聖霊は風。風は動いているから感じられるもの。**救いの確信は、動き続けるただ中で、現在進行形で味わうもの。**

## 【無意味な問いから解放されよう】

- 救われているかどうかなど、誰にも分からない。➡悩みの根源。信仰が後退していればなおさら、未信者との区別はつかない。自分や他者の信仰を疑うほどに、底なしの闇に陥っていく。
- 絶対に約束を守られる、義なる神、主を信頼し、委ねよう。そして、無駄に悩む暇があったら、小さな行動を一つ起こそう。例) 一つメッセージを聞く。誰かに謝る。やめるべきことをやめる…
- ペテロやパウロ、使徒たちは、過去の罪を悔やんでいただろうか？ 私たちを罪の呪縛から解放する、**最高の道は福音宣教の道。**

**主に遣わされ、仕える喜びが、代え難い平安をもたらしてくれる**

「天のお父さま。わたしは、み子イエス・キリストが、  
①わたしの罪(つみ)を贖(あがなう)うために十字架で死に、  
②墓(はか)に葬(ほうむ)られ、  
③三日目に復活(ふっかつ)したことを信じます。  
永遠の滅びからの永遠の救いを 主は与えてくださいました。  
あなたの約束に信頼して今日を歩みます。  
なすべき使命に ここから遣わしてください。  
ご聖霊の働きを 日々、身をもって味わっていただけますように、  
聖化の道を、平安の内に歩む者としてください。  
主イエス・キリストのみ名によって祈ります。 アーメン」